

田中野田防災計画(案)

1. 目的

この計画は田中野田町内会の防災活動に必要な事項を定め、地震その他の災害による人的、物的被害の発生及びその拡大を防止することを目的とする。

2. 組織(検討中)

町内会長 - 町内会副会長(上・下・西) - 防犯防災部 - 自衛消防団(消火班・避難誘導班・救護班)

《日ごろから努力すること》

- (1) 防災器具の点検
- (2) 防災知識の普及
- (3) 防災訓練の実施
- (4) 情報の収集伝達
- (5) 出火防止対策
- (6) 救出・救護
- (7) 避難誘導(場所)

3. 地震

《日ごろから気をつけておくこと》

- (1) 非常持出し(非常食・救急セット・衣類)
- (2) 家具の転倒防止策
- (3) 幼児・年寄対策(すぐ外に出られる場所に寝る)

《発生時》

- (1) すばやく火の始末(コンセント・ガス)
- (2) 戸を開けて出口を確保
- (3) 逃げる時落ちるもの、倒れるものに注意
- (4) 一時避難(中学校・公園)
- (5) 間がない時はテーブルの下等
- (6) 乳幼児・病人・年寄の誘導

4. 火災

《発生時》

- (1) 大声、早く知らせる、119番
- (2) 初期消火に努める、出火3分以内早く消す
- (3) 避難は早めに、早く逃げる

5. 風水害

《発生時》

- (1) 懐中電灯、携帯ラジオ(乾電池)の準備
- (2) 貴重品などの非常持出品の用意
- (3) 外出は強風による飛来物に注意
- (4) 気象情報を聞く
- (5) 飲料水の確保

以上の田中野田防災計画(案)について、皆様のご意見をお願いします。平成14年度は町内会の会員名簿を作成しますので、この名簿へ防災計画を載せることも検討しています。

平成14年度 子ども会及び育成会役員

子ども会	会長	小原 泰之	副会長	上田 拓史	鳥羽紀久子	高橋 紅美	運営委員	原 彰吾	斎藤恵美香	秋森 知恵			
育成会	会長	田中 耕太郎	副会長	松本 彰二	松村 清	和気 保夫	高橋 厚朗	西村 誠治	二宮 公博	植田 裕治	板谷 直一	上垣 浩樹	島田 裕治
	地区理事	斎藤 裕子	(生活指導部)	高橋 文代	(交通部)	鳥羽 晶子	(交通部)	地区副理事	上田 直美	(生活指導部)	原 早苗	(交通部)	
	会計	秋森 弘美	運営委員	小原 和子	顧問	今井 卓己	監査	西村 誠治	連絡協議会役員	松村 清	(同)事務局	小原 和子	
	交通安全母の会	内倉 初美	霜山 麻美	摺河真由美	スポーツ監督	和気 保夫	(ソフトボール)	高橋 厚朗	(ポートボール)				

平成14年度 愛育委員

1組	西浦笑美子	6	上垣真奈美
2	難波 恵子	7	和気 佳美
3	白石 幸江(支部長)	8	相澤 広美
4	和気 睦子	9	松原 和子
5	佐藤あつ子		

粗大ごみの持ち込み処理について

家庭の粗大ごみの収集が、ステーション方式から戸別収集制度に変わって、丁度一年になりました。現在の戸別収集では、受付センターへ電話(TEL 227-5300)で申し込むのですが(収集手数料は有料)、これとは別に先に各世帯へ配布された「ごみ減量・リサイクルガイド」一保存版 11・12P.一に紹介されているように、粗大ストックヤード(粗大ごみ中継所)へ、自分で直接持ち込む方法もあります。この場合は無料です。場所は西警察署西方の笹ヶ瀬川に架かる野花大橋付近(野殿西町428-6)で、取扱いは月～金の9～15時(昼休み時間を除く)です。詳しくはストックヤードへ連絡を(TEL 898-1412)。

虫のはなし(7)

メスの匂い(性フェロモン)に誘惑されるオスたち

(8組) 平尾重太郎

周知のように、鳥は鳴き声でコウモリは電波で、互いの仲間の異性間で交信している。小さな虫たちは広い野原でどんな手段で、異性に近寄り交尾にこぎつけるのだろうか。一部の虫ではメスが分泌する性フェロモンという、有機物質を交信の手段としている。昨今、週刊誌にも「〇〇はフェロモン女優」の記事がみられるので、多分フェロモンとはどんなものか、ご存知の方もあろう。フェロモンは元々昆虫で研究されたもので、数種類のフェロモンがある。例えば、アリが数珠つなぎになって歩いているのは、道に「道しるべフェロモン」が付けてあるからで、アリはそれを頼りに道に迷うことなく歩ける。また、ゴキブリホイホイは「集合フェロモン」に殺虫剤を混ぜたもので、これに誘引され死亡する。フェロモンの1種である性フェロモンは、メス(未交尾に限る)が体外に分泌排出し、その匂いをオスが感知して誘引される物質で、同じ種類の虫だけに作用するという特徴がある。わが国ではここ30年間に20種類の昆虫の性フェロモンが明らかにされている。生体から分離される性フェロモンはごく微量であるが、これを分析して化学構造を明らかにし、人工的に合成すれば多量の性フェロモンを得ることができる。

現在、10数種の性フェロモンが登録販売されている。これを使用した害虫防除には2つの方法がある。その一つは大量捕獲法(オス除去法)という。これは合成フェロモンと殺虫剤をいろいろな方法で、トラップ(捕獲器)に組み込み作物畑に設置しておく、性フェロモンの強力な誘引力により、多数のオスがトラップへ誘引捕殺される。したがって、オスが少なくなるためメスは交尾の機会を失う。その結果として産卵数が減少し、全体として虫の密度が低下し、被害が低減するのである。

2番目は交信かく乱法といい、合成フェロモンをいろいろな方法で空气中に高濃度で揮散させ、これによりメスとオスの間の交信をかく乱させて、メスの交尾を妨げるのである。これは高濃度の性フェロモンを常に嗅ぐことにより、オスは神経中枢が麻痺して交尾行動がとれなくなる。果樹園や畑、施設における実際の防除では、この2番目の方法の適用例が多い。しかし、どの防除法でも施設外ではなるべく広い面積での防除効果が高い。このような防除法を生物的防除という。

編集後記 本紙はこれまで複写機で役員が自家印刷しておりましたが、検討の結果印刷所のほうが一挙両得どころか三得? (安価・省力・仕上がりよし)、デメリットなしと判り、60号から外注しております。

ご承知のとおり早晚IT時代の到来は必至です。今回の場さんが述べておられますように、電子町内会の田中野田では他に先駆けてIT化が進められています。前号では町内有志の方にお願ひし、各自のパソコン利用の記事を特集しました。今回の記事とあわせ再度お読みください。